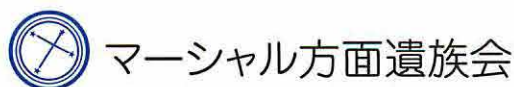


本部だより



●第 22 号

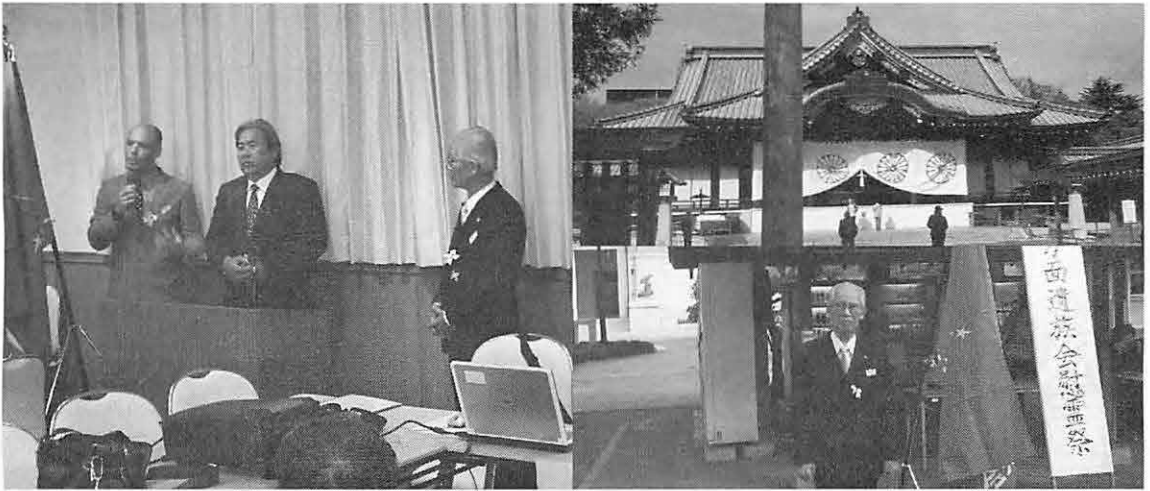
●環礁・本部だより第 22 号 ●発行日：平成 22 年 8 月 1 日 ●発行人：黒川誠
●マーシャル方面遺族会本部：〒142-0051 東京都品川区平塚 3-4-17
●電話 03-3783-8382 ●FAX03-6410-4420 ●振替番号 00100-0-93487



ジベ・カプア・マーシャル諸島共和国駐日大使(中央)と記念撮影。

三月から四月にかけて不順な天候が続いていきましたので桜の開花が気になっていきましたが、慰霊祭当日は花冷えとでも言うのでしょうか、少し寒いと感じた朝でした。しかしながら靖国の桜は見事に咲いて、私たちを迎えてくれました。
役員総出の受付には遠方よりの方々が次々と集まって、一年ぶりの再会を喜び合いました。
振り返ると、平成十一年四月八日の總會の場で私が本会の会長に就任して十二年が経ちました。今年の八月九日で九十一歳となり歴代会長では最高齢となっております。しまいました。
慰霊祭には受付、総会の準備機材を積んで自らの運転で参りました。免許証の更新は八月ですが、今回で終わりにしよ

平成二十二年四月三日
慰霊祭・総会・直会
皆さん元気で
慰霊祭斎行
黒川誠 (会長)



▲ジベ・カブア大使とグレッグ氏。

▲受付前に立つ黒川誠会長。

うかと思っています。

さて、参集殿では定刻前に高林芳夫幹事より慰霊祭の行事進行の説明があり、これより神官の案内で手水を使い、修ばつを受けて本殿に向かいました。神官の祝詞奏上のあと私の祭文奏上と祭典は続き、私と五名の皆さんによる玉串奉奠に合わせ全員二礼二拍手一礼の作法に則り、参拝を致しました。

退下のもと、靖国会館前で恒例の記念写真（最終ページ掲載）を撮りました。今年もマージナル諸島共和国ジベ・カブア大使が慰霊祭に参加されることになっていましたが、定刻になっても見えないので欠席かと思っていたところ、写真を撮り終えて総会の会場へ向かう直前に来られたので、居合わせた人達と共に私のカメラで写真を撮りました。それが表紙の写真です。

本号では全ページを私の解説で進行させて戴きます。

慰霊祭出席者

遺族の高齢化による出席者減少は、諸

遺族会の宿命です。今年の出席者は次の方たちでした。当日受付の方で、お名前を戴けなかった方たちの氏名が記載出来なかつたことをお許し下さい。

敬称略

青森県 須藤明子 山形県 長岡正昭
 福島県 富田キミ 根本さとみ 栃木県
 菊地彦巨（他三名） 茨城県 神永栄子
 鈴木やよい 大串直行 埼玉県 小野博
 孝 小野トキ子 西勝章夫 橋本強 近
 藤マスエ 小室貞男 小室洋子 曳地仗
 子 小松順子 藤田羊一 佐藤知子 鈴
 木裕子 井沢邦夫 高林芳夫 小田原利
 子 小田原實 小田原豊 小田原ゆき
 片桐覚治 大井和子 千葉県 石井健蔵
 泉水堯恵 東京都 黒川誠 石川勲 荒
 木常子 晝間志津子 内海淑子 山田二
 美 會田くに 星野綾子 中村秀夫 谷
 梯初枝 石川京子 水野貞二 水野薫
 石谷典夫 草場寛 高橋愛子 若狭幸子
 若狭恵子 若狭健一 山口良二 間々田
 征史 間々田邦子 石塚文子 中村順子
 神奈川県 佐藤隆一（他二名） 鈴木友
 季子 鈴木進 平井貢 梶谷友孝 森井
 静子 安威和子 岡野智津子 長野県

▼会計監査を発表する内海淑子監査役。



▲総会風景。

▲総会風景。

総会

総会の会場は靖国会館の「階行の間」と決まっていたましたが、神社の都合で「田安の間」に変更になりました。

定刻通り高林幹事の司会で定期総会は開会されました。議長には出席者の賛同を得て山口良二幹事があたり、式次第にそって議事進行に入りました。

総会には、ジベ・カプア大使も同席戴きました。さらにグレッグさんの研究に協力されている笹幸恵さんと小野賢さんが同席されました。

式次第

一、開会の辞

- 二、会長の挨拶 会務報告
- 三、会計報告
- 四、会計監査報告
- 五、国内慰霊祭行事の発表
- 六、現地慰霊巡拝の発表
- 七、その他

会計報告、会計監査報告は、荒木常子常任幹事と内海淑子監査役より受付で皆さんに配布した報告書（四ページ参照）をプロジェクトで照射しながら行われました。全員拍手で承認されました。

国内慰霊行事は、前号で発表した通りに行われますことを確認致しました。

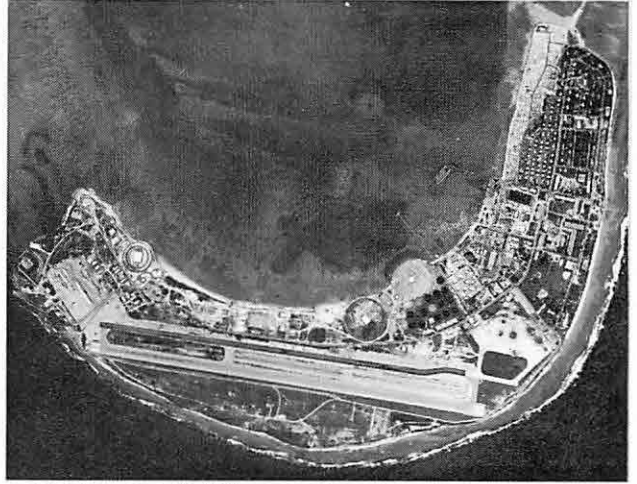
現地慰霊巡拝については、高林幹事より今年十一月に開催されることが決まり、現在十四名の参加希望があることが発表されました。

二月と七月に行われる永代神楽祭、四月の慰霊祭で必ずお目にかかる岐阜の吉田正明さんと山口の榎崎馨さんに、現地慰霊をテーマにして本号の原稿をお願いしております。

現地慰霊巡拝について緊急報告 次に申し上げることは恐らく皆さんも初耳であらうと思います。私もその話を聞くま

では夢にも思っていないことでした。それは、現地慰霊巡拝の重大な変化です。皆さんもご存知のようにクエゼリン島には本会の慰霊碑が建立されていることは旧知の通りです。従いまして、本会のクエゼリン、ルオットの慰霊巡拝については米軍基地では最優先でその許可は取得出来るものと考えておりました。しかしながら、戦後六十五年以上も経過した今日では慰霊碑建立に尽くされた

▼徳原氏提供の古いクエゼリン島。



▲慰霊碑は一番左端、外海に面した黒くなった部分。

平成21年度 会計報告書

マーシャル方面遺族会 自:平成21年1月1日
至:平成21年12月31日

1) 一般会計収支計算

収入の部

科目	金額
前期繰越	679,597
年会費	701,000
寄付金	544,000
雑収入	54,280
受取利息	914
小計	1,300,194
合計	1,979,791

支出の部

科目	金額
慰霊費	97,000
広報費	725,545
会議費	95,592
雑費	94,592
振替手数料	26,720
公租公課	0
小計	1,039,449
次期繰越	940,342
合計	1,979,791

2) 一般会計財産目録

平成21年12月31日現在

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金	93,998		
普通預金	687,303		
郵便振替	159,041		
		次期繰越	940,342
合計	940,342	合計	940,342

3) 特別会計

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期より繰越	9,000,000		
		次期繰越	9,000,000
合計	9,000,000	合計	9,000,000

※定期預金および定額貯金として保管

会長 黒川 誠
 会計 荒木 常
 監査役 内海 淑子

方々は皆が高齢になり、そのほとんどは亡くなっておられます。現在基地関係者は慰霊碑建立の歴史も知らされず、縁もゆかりもない時代となっています。さらに近年は同島周辺を戦跡めぐりと称するツアーも多くあるそうです。

基地関係者は新旧に差別することなく入島を申請されたグループ、あるいは団体を対象に毎年その数を制限して許可を与えているそうです。

本会の遺族だけは慰霊碑があるからいつでも最優先で許可が貰えると考えているのは事情を知らない私達の古い考え方であると知らされて、今更ながら新旧の相違を思い知らされました。

これらのことはグレッグさんから聞かされたことですが、六十五年の歳月の流れは私達の毎日の生活にも次々と変化があるように、基地も変わって当然でありましょう。

ジベ・カプア駐日大使の挨拶 総会に同席されたジベ・カプア駐日大使からの挨拶がありました。通訳はグレッグさんにお願ひしました。

「マーシャル方面遺族会の慰霊祭にお

招き戴き、感謝申し上げます。昨年に続いての二回目の参加です。私は貴会と我が国とのつながりを大切に考えています。

私自身は若くて戦争の記憶がありませんが、母から戦争中のクエゼリンの様子を良く聞かされて育ちました。母は日系で、

当時は十六歳だったようです。苦しいことも沢山ありましたが、それにも増して日本軍の良い思い出が繰り返されました。

先程、黒川会長から慰霊巡拝の変化が述べられましたが、私はクエゼリンの司令官とも直接話が出来ますし、希望すればペンタゴンとの連絡も可能な立場にあります。

貴会の慰霊巡拝が最優先で行われますよう、ご協力を惜しみません。来年度の慰霊祭にも是非参加させて戴き、両国の友好親善に尽くす所存です」

このように大使の力強い約束を戴きました。大使は次の予定があるために総会だけの出席でした。

直会

定期総会後は、同会場を直会会場に組

み替えて行われました。

直会出席者も年々減り続けて寂しい限りですが、何とか魅力のある企画を組んで盛り上げたいと考えています。皆さんからの名案をどんどん頂戴したいと思います。

和やかな懇談と、日本遺族会の「慰霊友好親善事業」に参加された方々の報告などがあり、来年の再会を約束してお開きとなりました。

慰霊友好親善事業参加者募集

毎年ご案内のように、日本遺族会では、厚生労働省から委託・補助を受けて実施する「平成二十二年度戦没者遺児による慰霊友好親善事業」の参加者を募集しています。

マーシャル諸島地域の申し込みは平成二十二年十月十二日に締め切られ、来年二月十二日から二十日の八泊九日で実施されます。申し込みは各都道府県遺族会事務局か本会にご連絡下さい。

その様子を新入会の高橋愛子さんより

吉田正明（岐阜県） クエゼリン、父への思い

クエゼリン、父が眠っている太平洋の真ん中の小さな島。生涯、私の脳裏から消えることはありません。

幸いにして平成十三年三月四日より同十一月までの八日間、私は日本遺族会による「マーシャル・ギルバート諸島慰霊



▲追悼文を読む吉田正明氏。

友好親善訪問団」に参加して、慰霊追悼を行うことが出来ました。

小さな島クエゼリンの日本人墓地の碑に向かい追悼文を読み上げ、父に語りかけたことにより、父の魂と触れ合うことが出来たのであります。

その内容は、「お父さんと対話致したく、今日、クエゼリン島に参りました。

お父さんは満州札蘭屯の第十五大隊を昭和十八年十二月七日の真夜中に出発されましたね。母（当時三十歳）と共に官舎の裏の窓からお見送り致しましたことを、私（当時六歳）にはまだ昨日のことのように思い出されます。

出発に際して母に残した言葉「大陸と異なり南の小さな島に行けば、まず生き返ることに出来ないと思って欲しい。戦況も不利な状態にあるので、お前達は直ちに満州を引き上げ内地に帰ること」に従い、昭和十八年十二月十日、札蘭屯を出発致しました。

十二月十二日釜山の港で最後にお会いしたお父さんの軍服姿は、未だに私の胸に焼き付いており、終生忘れることはないでしょう。

お父さんが昭和十九年一月十七日十時四十分にクエゼリン島で書き残された母宛の手紙を何度も何度も読み返して当時の島の様子を知ることが出来ました。

その要約は「皆様お達者ですか私も相変わらず元気で軍務に服しております。毎日暑いところで、丁度内地の七、八月頃です。毎日空襲ばかりで困ったよ。○

○准尉、○曹長が一月十二日に名譽の戦死をされまして、お気の毒です。毎日椰子の木陰で生活しております。満州からの引き上げ状況、ならびに父の病死の状況を至急ご通知下さい。丁度太平洋の中程です。お察し下さい。…また空襲、失礼致します。お母様によろしく」と記されており、その文面より米軍の上陸を二週間後（二月一日より米軍の攻撃が始まり、二月六日に部隊全員玉砕）に迎えていた日本軍陣地でのお父さんの心の動きを深く知ることが出来ました。お父さん、本当にご苦労さまでした。

今日、私はお父さんが眠っているクエゼリン島の大地に立ち、お父さんの魂にむかい合い人生の色々なことを聞いていただきました。本当にありがとうございます。

ました』であります。還暦を過ぎ、父に話しかけることが出来たことは感慨無量であり、一生忘れることはありません。

また、父は母に次のような言葉も残しています。「中国大陸での戦いならばどのよう
な事をして生きて帰ることが出来るが、小さな島では無理だ」と。中国大陸での歴戦の勇士であった父の言葉は、大陸では生き延びることが出来るが、クエゼリンではそれが出来ない戦争の難しさを的確に言い当てています。現実にはベトナムと米国、アフガニスタンとソ連・米国、中東での戦争経過を振り返ってみたとき、歴然としているのではないのでしょうか。

現在、その母は九十六歳となり、やや記憶力が衰えましたが、元気に読経三昧の日々を過ごし、デイサービスに通い(月に八日間)人様との語らい・入浴などを楽しんでおります。

私はお父さんに会いたくなく靖国神社に昇殿参拝して「吉田壹二命」に語りかけることにしています。すると何となく、お父さんと会話をしている気分になれるような気が致します。お父さん宜しくお願い致します。

櫛崎馨 (山口県)

父が作った司令部跡を見て

平成十二年度、財団法人日本遺族会によるマーシャル、ギルバート諸島慰霊友好親善訪問団に参加したことがマーシャル方面遺族会入会のきっかけでした。

平成十四年三月十四日付けで黒川誠会長より入会通知を載いて現在に至っております。

私の父は、第四海運施設部に所属し、昭和二十年二月六日クエゼリン島で戦死しました。父が亡くなった場所を一度見たいという願望が叶いました。クエゼリン島は珊瑚礁の島でとても美しい島で、六十五年前にここで激戦があったのか・・・全員玉砕したのかと感慨ひとしおのものがありません。

父は施設部に所属していたとのことで、日本軍司令部跡を見たとき、厚くて頑丈な司令部を父たちが作ったのかという誇りと空しさを感じたことが思い出されます。



▲永代神楽祭後に訪れた札幌雪祭りでの櫛崎夫妻。

戦死から六十五年の年月が過ぎましたが、戦争によってかけがえのない命を落とした父や子の尊い犠牲が今日の日本の平和と繁栄が築き上げられたものと思っています。

私は、父の慰霊のために毎年二月六日の永代神楽祭、四月のマーシャル方面遺族会慰霊祭、同七月十五日の永代神楽祭に年三回上京して靖国神社に参拝しております。昇殿参拝致しますと父に会った

ような気がします。

慰霊祭と総会に来賓として出席されたジベ・カブア・マーシャル諸島共和国日本大使からは、本会に対して出来る限りの協力を惜しまないとのことのお言葉を戴いて、心強く思いました。

また、グレッジ・ドボルザークさんの太平洋戦争に対する歴史研究の講話を聴き、大変考えさせられることが多く、勉強になりました。

この内容は、学校教育や社会教育の場においての必要性を強く感じました。遺族会の運営につきましては、黒川会長を始めとして、東京在住の役員の皆さんがボランティアで運営されています。心より厚く感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。



▲秋吉台のパンフレット。

私が住んでいる山口県美祢市秋芳町は、県の中央に位置し、国定公園秋吉台

は特別天然記念物秋芳洞のある観光の町です。こちらにお出かけの際は是非お立ち寄り下さい。ご案内致します。



高橋愛子

(東京都)

私は今年二月の戦没者遺児による慰霊の旅に参加しました。旅は前後の一泊ずつグアム島に泊まって行くというシニア向きの旅でした。

飛行機のタラップを降り立った「クエゼリン」は、目の覚めるような色に囲まれた珊瑚礁の上にあります。緑の芝生のミサイル基地になっていました。高い椰子の木が南国特有のやさしい風に爽やかに揺れ、実がいっぱいになっていて、私たちは実が頭上に落ちて来ないように歩きました。

町はまるでアメリカの上流住宅地を切り取ってそっくり持ち込んだような整備された様子でした。その一角に赤い鳥居の先に立派な石が建てられており、「日本人墓地」は広いスペースで建立されてあ

りました。

般若心経の流れる中、お参りが始まり、次々と追悼文が読まれ、式は進められました。最後に「ふるさと」などを歌い、胸の詰る思いでした。父もこんなに美しい所に安らかに眠っていると思うと安心致しました。

戦後の混乱を生き、七十歳にしてやっとマーシャルに来られ、私の戦後は終わったと肩の荷を下ろした思いでした。

「クエゼロッジ」は軍の方たちの泊まっていた所で、シャワーにゴムぞうりが入りましたが、やはり湯船があればと思います。

食事は軍の家族等と一緒に、とてもおいしく、特にたっぷりの野菜サラダにかけて食べるラズベリーのドレッシングは最高。オムレツも具を並べてあり、好きなものを入れてもらえました。デザートもソフトクリームは、自分で作りいくらかでもコーンカップに入れて来ました。

最後はやはりマーシャルの島へ。マジユロへ行き、慰霊の後小学校を親善訪問し、百人くらいの子供たちから歌や踊りで大歓迎を受け、植樹をしてフレンドリ

「な子供たちとお別れした。」

島のローラ病院へ日本から車椅子を寄付に。病院は院長先生と看護師の二人でとてもやさしい二人でした。とにかく、人口の半分は子供ですと語ってくれ、子供用車椅子をととても喜んでいただいた。



笹 幸恵
(ライター)

■慰霊祭にお招きした笹さんにも感想文を戴きました。

私は物書きをしております笹幸恵と申します。グレッジ・ドボルザーク氏の紹介で、今年はじめにマニシヤル方面遺族会の慰霊祭に参加させていただきました。皆様、温かく迎えてくださり、とても有り難く思っています。

私は戦没者遺族ではありません。しかしこの数年、先の戦争で激戦地となった太平洋の島々を訪ね歩き、祖父の世代となる将兵たちの足跡を辿ってきました。ソロモン諸島やギルバート諸島、マリアナ諸島、またトラックやポナペといった

ミクロネシア連邦の島々などです。

戦後三十年も経ってからの世に生を享けた私にとって、かつての戦争は近いようで遠い、遠いようで近い、つかみどころのない出来事でした。飢えることも知らず、生命の危険を感じることもなく、何不自由なく育ってきた私たちの世代は、学校で戦争の歴史を詳しく教えられないまま、今このときを過ごしています。

敗戦から六十五年。遺児の方々は還暦を過ぎ、戦争体験者は泉下の人となりつつあります。戦後世代の私たちの中には、かつてアメリカと戦ったことすら知らない人もいます。けれど、たった六十五年しか経っていないのです。果たして何も知らないままで本当にいいのだろうか。そんな思いを、私はずっと抱えてきました。自分できちんと勉強しようと思ったのは、今から十年ほど前、『アロン収容所』という本を読んでからです。また思い返せば、私の祖母は、食べ物を粗末にするなど、幼い私に口がすっぱくなるほど繰り返していました。

「戦時中は、じゃがいもの皮さえもつたないと思ったものよ」

それが口癖でした。

私はあまりにも無知でした。しかし勉強しようとして戦争に関する本を読んでみても、難しくとても太刀打ちできません。それなら現地を歩いてみよう。直接、戦争体験者の方々の話を聞いてみよう。それが、私が戦跡巡りを始めるスタートとなりました。



女ひとり
玉砕の島
を行く
笹 幸恵

三年前、私は『女ひとり 玉砕の島を行く』という本を出版しました。これは戦跡巡りを始めてから二年間の旅の記録です。私にとってはライフワークであり、出版してからも旅を続けています。たった六十五年前のことを知らずにいるのは、格好つけた言い方をすれば、自分の怠慢にはかならないと思うからです。

これまでご縁をいただいた遺児の方々の多くは、父親を失った悲しみを抱えて今を過ごしていらっしゃいます。これは、歳月が経てば癒えるというものではありません。そしてその思いは、現代の繁栄

を享受している私たちとて無関係ではありません。国を想い、故郷を想い、家族を想いながら戦場で亡くなっていた人々。その存在に心を寄せるのは、ごく当たり前のことだと思っています。

今回、慰霊祭に参加させていただいて、黒川会長はじめ事務の皆様が本当に熱心に活動していらっしやることに頭が下がっていると思いました。マーシャル方面へも、ぜひ会の皆様とご一緒に、慰霊に訪れたいと考えています。私にとって、あの戦争の実相を知るのは容易ではありません。しかしながら知ろうとする努力は続けていきたいと思えます。これをご縁に、どうぞよろしく願います。

最後になりましたが、マーシャル方面遺族会をご紹介くださったドボルザーク先生、このたびの慰霊祭への参加をご快諾くださった黒川会長に、心から御礼申し上げます。

徳原徳子さんの母校訪問と周辺散策 岡野智津子

■四月十六日にハワイから帰国された

本会の篤志会員の徳原徳子さんを囲んで四月二十日に本会役員と横浜で懇親会を行いました。この模様を岡野幹事に記して戴きました。



▲懇談会後の記念写真。

徳原さんは、「佐竹さんが亡くなられてこれでマーシャル方面遺族会ともご縁がなくなると寂しく思っていました。黒川会長初め役員の皆さんと益々強いつながりが出来、これも偏に亡き佐竹さんのお引き合わせと喜んでいきます」とお話し



▲徳原さんの母校で記念写真。

下さいました。

ご帰国の前日、かねてからお聞きしていた徳原さんの母校（旧横浜市立桜ヶ丘高等学校）を荒木常子さんをお誘いして三名で訪ねることとなりました。学校は、JR保土ヶ谷駅より西の小高い山の上にあります。

案内役は私の長男の嫁（玲子さん運転）でした。周辺は昔を偲ぶ面影はありますが、懐かしい通学路が残っていたようです。校庭に車を入れさせて戴き、校舎をバックに私の携帯で記念写真を撮りました。昔の印象はなくなっていたようですが、母校を訪れ、校庭の土を踏み、少しでも昔を懐かしんで戴けたと共に喜んでいきます。

寄付者芳名 (敬称略・順不同)

次の会員、会友の皆様より慰霊奉賛のための浄財をご寄付戴きました。合計金額、四十四万七千五百円でした。厚く御礼申し上げます。今後ともよろしくご協賛をお願い申し上げます。

北海道 岩川愛 青森県 松橋ミツエ
下川与三郎 岩手県 小杉サヨ 宮城県
相馬ツキ 秋田県 打矢和子 山形県
丹野好啓 福島県 根本さとみ 古市光男
富田キミ 遠藤貞顕 茨城県 神永栄子
鈴木やよい 大串直行 北条晃
栃木県 吉川芳蔵 菊地彦巨 埼玉県
橋本強 小野博孝 宇田川ひさ 千田恒子
富川艶子 佐藤知子 鈴木裕子 高林芳夫
近藤マスエ 小田原利子 千葉県 泉水堯恵
谷澤英子 石井健蔵 宮崎県 廣原実
石川きみ 高山満喜男 腰川妙子
東京都 黒川誠 石川勲 佃喜美
番場信子 晝間志津子 内海静枝 荒木常子
田中猛 井上賀雄 井川富子 高坂和靖
會田くに 星野綾子 米林義昭 西田寿子
中村順子 水野貞二 谷

梯初江 岩浪邦江 草場寛 山口裕子
西田恒子 間々田征史 神奈川県 川名茂子
鈴木友季子 平井貢 石渡綾子 森井静子
石澤洋子 糀谷友孝 柳沢弘子 平井加代子
岡野智津子 佐藤隆一 新潟県 石丸進
山田キヨエ 富山県 池田淑子
広上敏夫 藤木義房 広島富子 石川県 林秀光
木村久子 山梨県 黒川正文
長野県 油井芳枝 山口久幸 宮下勤子
綾部はつゑ 牧内長逸 岐阜県 吉田正明
静岡県 大畑幸夫 服部くにゑ
野崎昭二 愛知県 岡島みね子 安藤昌子
浜田芳枝 京都府 川本彦次 大阪府 福田音和
兵庫県 枝光剛郎 奈良県 奥田義寛
和歌山県 福井敬眞 鳥取県 井上照美
広島県 藤本正 奥井禮子
佐々木千鶴子 瀬戸隆子 浦手清司
植田敏裕 香川県 石川正興 富田佳代子
秋山武 愛媛県 三好エミ子 馬場清
大塚喜久雄 山村一郎 渡部守長岡俊夫
高知県 土井勢津 柳村摩耶子 野島鶴美
山口県 吉永峯生 道源陽子
福岡県 平田郁子 吉松貞子 佐賀県 金子茂
長崎県 山下タエ 熊本県 土田利子
植川二男 右山定 村上

訃報

■荒木常子常任幹事の御叔母、佃喜美さんが亡くなられました。

●荒木常子

叔母、佃喜美が今年二月半ばに入院の末九十九歳で亡くなりました。年を重ねても健康で、入院と聞いても亡くなるとは全く結びつきませんでした。

叔母の夫である佃敏郎(私の父と同方面で戦死)が私の母の実弟で、父と同じ海軍省水路部に勤務していたこともあり、他に沢山いた兄弟の中で一番仲のよい姉弟でした。

昭和五十年第一回のマージナル現地慰霊が会で発表されたとき、「私これに参加してみようと思うのよ」と電話がありました。未だ勤めを持っていた私ですが、最初から無理と決めていたのですが、叔母の勧めで一緒に参加しました。

第48回マーシャル方面遺族会慰霊祭 平成22年4月3日 於 靖国神社



撮影 ツカモト写真館(靖国神社・九段会館指定)